

## 1 これまでのリサイクル

私たちはこれまで、新聞・雑誌・段ボール等を資源回収業者の手に委ねてきました。これは、知らず知らずの間に身についた「無資源国日本」という意識と、昔からの「物を大切にする」「捨てたらもったいない」という意識に合わせ、回収に回すことによりいくばくかの料金や品物と交換してもらえるというメリットがあったからではないかと考えられます。

しかしながら、回収にお金を払わなければならない（逆有償）と、再資源化できていたものの多くがすぐさま廃棄物になってしまいます。

廃棄物の増減は、生産活動や経済活動の影響を大きく受けると言われていますが、このように再生資源物の需給関係のバランスも重要な要素のひとつではないかと考えられます。



## 2 循環型社会の構築

私たちは、環境への負荷をできるだけ低減し、資源の有効活用や再利用を図り、古紙価格の動向などの現象面にとらわれることなく、再利用や再資源化の徹底した「循環型社会」を目指す必要があります。

そのためには、生産・流通・消費・再利用・廃棄等それぞれの過程において事業者・市民・行政がそれぞれの役割と責任を明確にしながら、豊かな自然環境や快適な生活空間を維持するという共通の目標を達成するため、地球規模のテーマ「ごみゼロ循環社会」へ向けた取り組みを積極的に推進していく必要があります。

